

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第5週 (1/28-2/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		5週	4週	3週	2週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	1/28-2/3	1/21-1/27	1/14-1/20	1/7-1/13	1/21-1/27
			5週	4週	3週	2週	4週
小 児 科	RSウイルス感染症		2 0.11	1 0.06	0 0.00	1 0.06	14 0.11
	咽頭結膜熱		4 0.22	2 0.11	1 0.06	3 0.17	20 0.15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	56 3.11	65 3.61	54 3.00	55 3.06	399 3.02
	感染性胃腸炎		143 7.94	178 9.89	136 7.56	202 11.22	1,076 8.15
	水痘		6 0.33	7 0.39	9 0.50	3 0.17	61 0.46
	手足口病		0 0.00	1 0.06	1 0.06	1 0.06	10 0.08
	伝染性紅斑	○	25 1.39	18 1.00	22 1.22	28 1.56	131 0.99
	突発性発しん		8 0.44	8 0.44	8 0.44	11 0.61	41 0.31
	ヘルパンギーナ		2 0.11	0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	1 0.06	0 0.00	10 0.08
	インフル	↓↓◎	1,374 49.07	1,904 68.00	1,525 54.46	937 33.46	15,477 73.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	0 0.00	2 0.40	13 0.37
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	70歳代	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	クロイツフェルト・ヤコブ病	男性	60歳代	臨床診断及び脳波等の検査
コクシジオイデス症	女性	50歳代	病原体の分離・同定等	水痘(入院例)	女性	20歳代	臨床診断
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	20歳代	細菌の分離・同定及び薬耐性の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳代	抗体の検出

・第5週は、結核2件(13)、コクシジオイデス症1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(1)、急性脳炎1件(3)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(1)、水痘(入院例)1件(3)、百日咳2件(8)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第5週のコメント

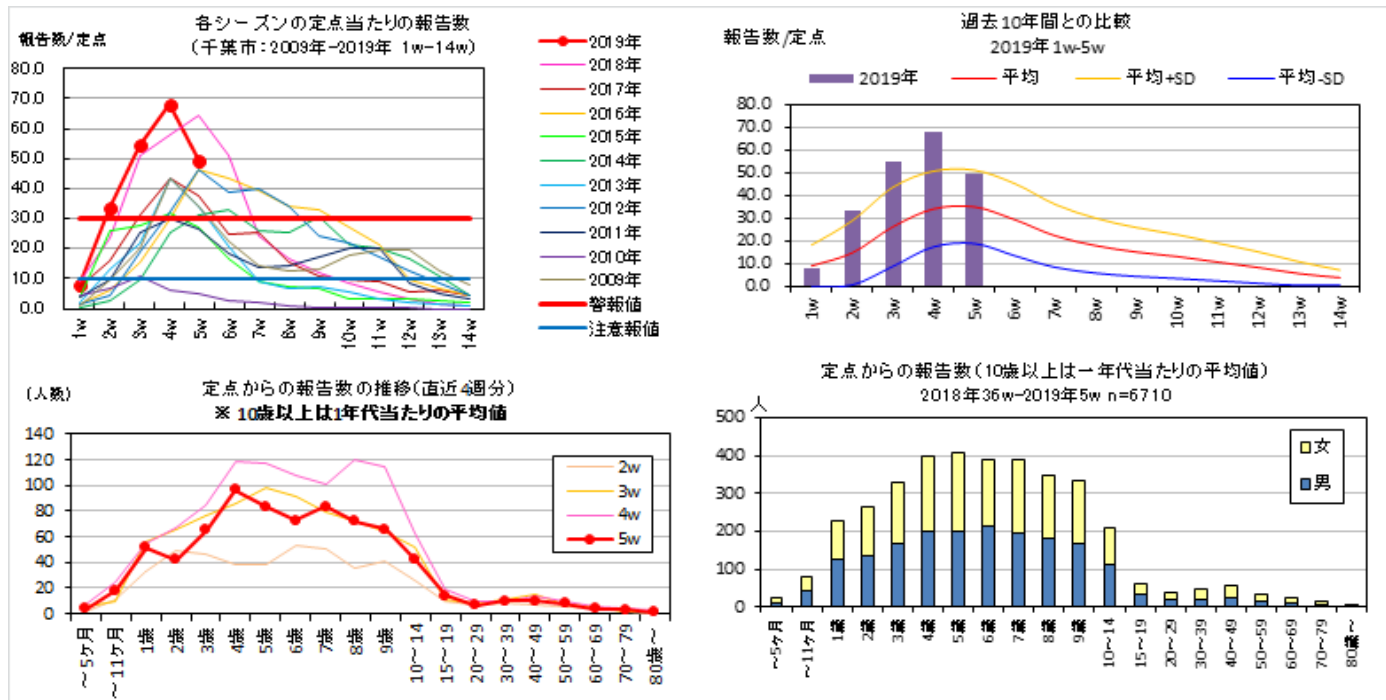
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞ 前週より減少増加し3.11となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜伝染性紅斑＞ 前週より増加に転じ1.39となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

＜インフルエンザ＞ 前週より減少し49.07となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■ ＜インフルエンザ＞

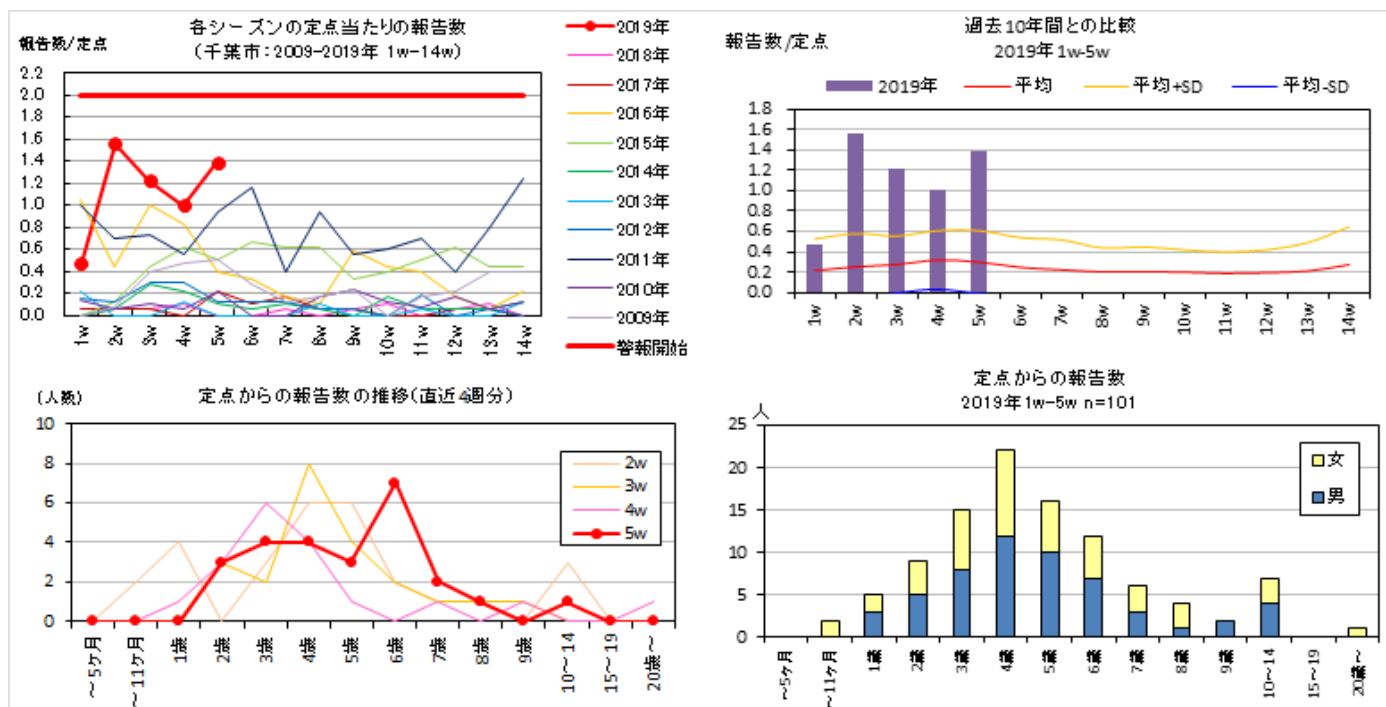
全国レベルの第4週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では埼玉県、新潟県、千葉県順で多く報告されています。千葉市の第5週は前週より減少し49.07となりましたが、流行発生警報開始基準値は上回ったままとなっています。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区(77.0/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第5週までの累積報告数は6710件で、性別では男性が49.8%(3344名)、女性が50.2%(3366名)で、年齢階級別では5歳(6.1%:406名)、4歳(5.9%:398名)、7歳(5.8%:390名)の順で多く、20歳未満は全体の67.6%、10歳未満は全体の47.5%となっています。



	第5週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		警報	警報	警報	警報	警報	警報	警報
過去10年の同時期との比較		多め	多い	多い	多い	多い	多め	多め
昨年の同時期との比較		少ない	少ない	多い	少ない	少ない	少ない	少ない

＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第4週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮城県、山形県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第5週は前週から増加に転じ1.39となり、第2週から連続して過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳～6歳で発生報告がありました。2019年第1週から第5週までの累積報告数は101件で、性別では男性が54.5%(55名)、女性が45.5%(46名)となっており、年齢階級別では4歳(21.0%:22名)、5歳(15.8%:16名)、3歳(14.9%:15名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第4週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、鳥取県、石川県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第5週は前週から減少し3.11となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(9.75/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第5週までの累積報告数は875件で、性別では男性が53.1%(465名)、女性が46.9%(410名)となっており、年齢階級別では4歳(15.3%:134名)、5歳(13.9%:122名)、6歳(11.8%:103名)の順で多くなっています。

